

「五所川原市公共施設等総合管理計画」（改訂案）についての意見募集結果について

市が実施しました「五所川原市公共施設等総合管理計画」（改訂案）の策定にあたっての意見募集に対し、貴重なご意見をいただき、誠に、ありがとうございました。

いただいた意見の概要とそれに対する市の考え方は下記のとおりです。

記

1 意見募集期間

令和6年1月11日から令和6年2月9日まで

2 募集方法

市のホームページ (<http://www.city.goshogawara.lg.jp/>) に案の概要等を掲載したほか、市管財課施設マネジメント室、行政資料スペース（本庁舎、金木及び市浦総合支所）に備え付けました。

意見提出は、郵送、電子メール、FAXのいずれかの方法によることとし、提出言語は日本語としました。

意見提出にあたっては、提出者の氏名・住所（法人等の場合は、その名称・事務所所在地等の連絡先）の明記を条件としました。

3 提出された意見

1人の方から延べ1件の意見をいただきました。その反映状況は次のとおりです。

文章修正等	記述済み	実施段階検討	反映困難	その他	合計
0件	0件	0件	0件	1件	1件

「文章修正等」・・・本文の修正、記述の追加等意見を反映させるもの。

「記述済み」・・・既に記述済みのもの

「実施段階検討」・・・計画の実施段階で検討又は対応すべきもの。

「反映困難」・・・反映が困難のもの。

「その他」・・・質問や感想。施策の体系外への意見。

意見の内容とそれに対する市の考え方及び意見を考慮した結果決定した改訂案は、次のとおりです。

(提出された意見の内容とそれに対する市の考え方)

提出された意見	市の考え方
公共施設等の現状と課題に関しては総延べ床面積保有という形で明記している。これは公共施設を活用しているかどうか、現状を明確に知る上で分かりにくく、現状に関しても古い建物なのかどうか、早急な施設の改善が必要かどうかの順番も分かりにくい。 施設類型 主な施設 延床面積 (㎡) が表で描かれているだけで、どの施設がどれ程活用されてい	貴重なご意見ありがとうございます。 五所川原市公共施設等総合管理計画は、厳しい財政状況が続く中で、人口減少・少子高齢化等によって公共施設の利用需要が変化していくことが予測されていることを踏まえ、市の公共施設の全体の状況を把握し、総合的かつ中長期的な視点をもって、公共施設の最適な配置と施設総量を実現するための、市の公共施設等に関する最上位計

るのか、もしくは活用されていないのかが明確に表記されていない。更に、資料の中に記載されている「歴史民俗資料館」は、現在、閉館になっており、市民が出入りすることは出来ず、市で管理しているかもしれないが、どのように活用しているのか疑問の場所である。菊が丘公園は、溝もあり、葦や萱等の他、昔植えられた木や草が伸び、荒れ放題の所もある。管理しているとはとても言えない状況である。野球場に関しても周囲を囲む塀は腐って壊れており、見苦しい状態が続いている。活用されている場所、その頻度、今後もっと手を加えた方が良いのではないかと感じる場所が多くみられる。

公共施設がこれだけある中で、例えば、公営住宅の建て替え立て直しの順番を考えるようなアンケートなど、市民が一緒になって自分達の活用する場所に関して考えたり、伝えたりする場面がこれまであっただろうか。市民の為の五所川原市公共施設をどうしたらいいか、話し合う場を設けたことがあっただろうか。これまで一度も無かったように思う。せめて議会できちんと話し合いが行なわれてきたのだろうか。今後老人が増え「高齢化がますます進んでいくものと推測される」と名言していながら、今後の計画案に「高齢化」への対応策が何ら掲載されていないのはどうしてだろうか。改善予定の順番も明確に書かれていないが、その改善する際の順番は何で決まるのだろうか。「子ども」優先ばかりをうたって、一番肝心の「高齢化」をないがしろにしているのではないだろうか。五所川原市の実状をふまえ、明確にして欲しい。

全体として資料を見ると、「予算がないのでどうする事も出来ない」の一点張りのように感じる。五所川原市民の為に尽くしてきた老人達が暮らしやすい市を作ろうと考えたことはあるだろうか。再度今後の計画案を見つめ直して欲しい。例として、立佞武多の館4階に大規模改修の際、老人を集める場所を作るという計画があるようだが、70代、80代の老人は自宅でのんびりしている方が楽で、外出するのは病院へ通院する時

画として策定しております。

個別施設ごとの活用状況や管理方法、今後のスケジュール等につきましては、類似する施設用途別に策定している個別施設整備計画に示すこととしており、今後、本計画との整合を図りながら、適宜見直しを実施していきたいと考えております。

ご指摘いただきました公共施設の高齢者への対応策及び管理状況の改善等につきましては、今後の施設利用需要の変化を見据え、施設の適正配置・適正総量を図りつつ、高齢者にも優しい、使い勝手の良い公共施設となるよう、市民の皆様と連携を図りながら努めていきます。

また、高齢者の公共施設に関するニーズや意見公募の方法などについても、今後検討していきます。

ぐらいであり、仕方なしに外出しているのが実状である。老人どうし集まって話し合う場所を作ったとしても、集まって話す人は現在 ELM で一日過ごすような方ぐらいで、石油ストーブやエアコン、電気水道がもったいないと集まるようなものであり、市の財源確保、収入にもならない。五所川原市民に関しても、老人が集まる介護の為の場所となるかといえば、そのようにはならないと考える。

同じ町内では歩くことが困難ながら生活する為に買物にも行けず、やっと生活している方々を見ている。使用していない空間を老人用に活用出来るようにしたからといって、高齢者は外出する事などない上、無駄な空間となるだろうことが想像できる。現在、能登半島の大地震災害を教訓にし、公共施設の在り方を再度検討し直して欲しい。

財源確保が難しいという事、更に、立佞武多の館の大改修工事、五所川原市の今後を左右する肝心な決定事項である。パブリックコメント募集中といわれても、日々忙しい上に文章を書く事が苦手な市民はどうやったらいいか分からないパブリックコメントという物に関して、取り組む訳がない。

各会社に要請したり、高齢者には聞きに行く等、市の側でも歩いて伺うようにした方が本当の市民の声を聞くことが出来、お互いが納得できる税金の使い方ができるのではないだろうか。本来の「市民参加型」ではなくなってきている印象を受ける。

インターネットや PC を活用し、計画案を見ることは高齢者には出来ない。今後は、もっと年配の人間でも分かりやすい「意見公募」の在り方を「高齢者の多い五所川原市」だからこそ行なって欲しい。自分の支払うお金や自分に入るお金でなければ見過ごす上、誰も熱意を持って書こうとしないのが実状である。

市浦や金木の地域在住の方々に関しても、五所川原市と合併はしているものの、地元意識が強く、他人事で、意見公募募集と言われても提案す

る人はなかなかいないと思われる。市浦、金木地域の利点なる提案をして欲しいと聞きに歩くのが本来の公共施設管理者の在り方ではないだろうか。

未来を変える在り方を楽しみにしている。